
麒麟をめぐる冒険

雨野きりん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

キリンをめぐる冒険

【Nコード】

N6965L

【作者名】

雨野きりん

【あらすじ】

魔法使いのリシユリー卿率いるロココ王国との激しい戦闘から3年の月日が流れた。プロキア国を守り混乱を収めた王女モモリーナは、戦闘のピンチから彼女を守り、その後、西へと去っていったキリンを探す旅に出る。あのキリンは親しかったジローラモ博士の変身だったのか？それとも・・・博士の失踪の謎と去っていったキリンの足跡を追う、モモのキリンをめぐる冒険が始まる。

プロローグ(1)

「なんだか頭が痛いよ、おかあさん」

「そんなに急いで頭を上げるからだよ、ゆっくりと頭を上げないと頭がくらくらするんだよ。」

「ふーん、そうなんだ。」

(そうなのだ。僕らキリンは背が高いせいで、頭を一気に上げると貧血を起こしそうになるのだ。)

広いサバンナの水場で、そのキリンは、ぼんやりと考え込んでいた。

(はてな?・・・何故、僕はそんなことを知っているの?・・・貧血なんてことをどこで知ったんだろう?)

西の空を真っ赤に染めて、太陽が褐色の大地に沈もうとしている。水場に集まったキリン達の影が、長く伸びていた。

「ジェイさんは、なんでいつもずっと遠くを見てるの?」

さっきの子供のキリンが、側に寄ってきて彼に話しかけた。

「やあ、トミー。なんとなくなね。どこか遠くに大切な忘れ物をしてきたような気がするんだよ。」

キリンの雄には珍しくジェイは子供の相手を嫌がらない。トミーはこの風変わりな雄のキリンが好きだった。

「へえー、どんな忘れ物?とびきりおいしいアカシアの葉っぱかい

「？」

「うーん 僕はアカシアの葉っぱは苦手なんだ・それじゃあないね・

」

「じゃあ なんなのさ」

「わからないよ・ずっと前に忘れてしまったんだ・」

トミーはジェイがここにやって来たことを思い出していた・

< 続く >

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6965/>

麒麟をめぐる冒険

2010年10月10日00時29分発行